

あ・と・が・き

この冬は、日本海側の大雪とまではいきませんが、日高の軽種馬育成調教場も例外ではなく、頻繁な降雪に見舞われ、屋外は真っ白い雪原と化しました。そのような状況下でも、馬場整備は勿論のこと馬道の確保にも万全を期し、3つの屋内馬場ではトラック・直線・坂路というそれぞれの特性を活かして、いよいよデビュー間近となった若馬達のトレーニングが順調に進んでおり、厳しい寒さも吹き飛ばすほどの熱気で溢れておりました。

当センター研修生は、生産地等において即戦力となる育成調教技術者を目指して、この一年間厳しい訓練に励んできました。研修成果のお披露目として、4月15日の修了式において騎乗供覧を行います。それに先立ち11日にはJRA育成馬展示会での育成馬騎乗供覧にも騎乗しますので、お時間がありましたらご覧ください。また、4月12日には新研修生21名が入講してきますので、これまでの研修生同様よろしくお祈いします。(Y.H.)

軽種馬育成調教センターは、本年3月で創立20周年を迎えました。「たづな」欄に当センター伊藤克己理事長より20周年にあたってご挨拶を掲載させていただきました。皆様には引き続きご指導およびご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「調査・研究」には2テーマを掲載しています。ひとつは、軽種馬生産地で関心の高い妊娠馬における早期胚死滅と胎子喪失の実態調査について、日高軽種馬農業協同組合の宮越大輔氏に執筆していただきました。軽種馬の生産性向上に繋がれば幸いです。もう一つは、サラブレッドの喉頭片麻痺に対する喉頭形成術の術後成績に関する調査報告を社台ホースクリニック所長の田上正明氏にお願いしました。原因の不明な疾患の手術による治療で、評価の難しい面がありますが、喉頭片麻痺の治療法の進展に期待したいと思います。

シリーズで掲載している「やさしい育成技術」では、JRA日高育成牧場の頃末憲治専門役に子馬の管理法・1歳セリに向けての準備のうち、引き馬について解説していただきました。若馬の飼養管理技術の向上に役立つことと思います。「海外の馬最新情報」では、競走馬のパフォーマンスと浅指屈腱炎との関係について紹介しました。「馬にみられる病気」では、今号より腱・靭帯の構造と機能などについて解説しています。競走馬に多く発生のみられる屈腱炎予防の参考になれば幸甚です。(T.Y.)